

(4) 電力対策について

想定課題

国会等移転に当たっては、電力供給面からみて新たな都市づくりは可能なのか。

対応方向

栃木県における電力については、大部分（約8割）を他県に依存しており、今後とも、この傾向は続くものと思われます。新都市の整備に当たっては、同じ電力管内であることを考慮すれば、特に問題はなく、那須地域には現在でも3経路の基幹送電線（新しいわき線、福島幹線、福島東幹線）が設置され、他県から本県及び首都圏への電力供給を担っていることから、新都市の整備に当たって必要な送電線等の整備も比較的容易であると考えられます。

電力エネルギーについては、例えばソーラー発電、風力発電、地熱発電など、地球環境の保全に配慮した新エネルギーの積極的な活用も検討していく必要があります。こうした新エネルギーは、今後、大幅なコスト削減等の課題を克服し、本格的な普及・利用のための条件整備を行いながら、既存の電力エネルギーをも含めたベストミックスの考え方に基づいた活用を行うべきであると考えます。

栃木県の電気

		平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	
電気使用量(単位：kwh)		160億	162億	161億	165億	169億	
供給内訳	福島県	原子力発電・火力発電	79.8%	77.6%	78.9%	79.4%	80.0%
		水力発電	4.5%	4.3%	5.7%	4.9%	5.1%
	栃木県	水力発電	15.7%	18.1%	15.4%	15.7%	14.9%
東京電力管内における供給力(単位：kwh)		5,968万	6,084万	6,275万	6,392万	6,301万	
予備率		4.5%	7.4%	10.9%	11.8%	6.4%	

東京電力栃木支店 平成13年3月現在

発電原価試算

	建設単価(kw当たり)	発電単価(kwh当たり)	備考
太陽光発電	100～110万円	67～81円	1999年7月
風力発電	60万円	16～25円	通産省資料
水力発電	60万円	13円	電気事業連合会資料
石油火力発電	19万円	10円	
LNG火力発電	20万円	9円	
原子力発電	31万円	9円	

ベストミックス

電気をつくる方法は、大きく火力・原子力・水力発電の三つに分けることができますが、さらに新エネルギーも含め、これらを燃料確保の安定性、経済性、環境への影響、運転特性など、総合的に考えながら、バランス良く組み合わせることを電源のベストミックスと呼んでいます。

